

水通すコンクリ インドネシアに

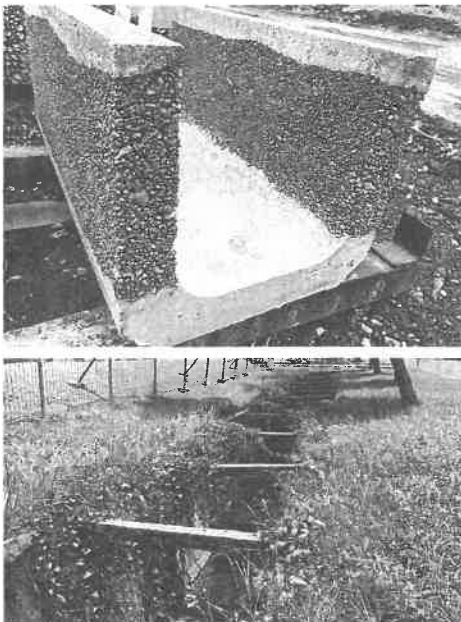
つながる アジア

コンクリート製品製造の北海道ポラコン（札幌）はインドネシア進出を計画している。同社の特殊コンクリートを活用し、雨水で膨張しやすい現地の土質が原因でインフラ設備に悪影響が出やすい問題の改善に乗り出す。来年1月から現地での本格調査に入り、数年後に初の海外事業として軌道に乗せたい考えた。

（栗田直樹）

北海道ポラコン 雨水対策に

同社は空知管内栗山町の工場で側溝や管などを製造。特殊な技術で骨材をつなぎ合わせ、管などにわずかな隙間をつくり、水が一定程度出入りするようにした。ビルや公共施設では、雨水を地下に浸透させる工



④北海道ポラコンが製造する側溝。両側面は隙間があり水が出入りする構造になっている
⑤インドネシアのジャカルタ近郊の雨水などを流す側溝。膨張性粘土などが影響する圧力で収縮するため、つかえ棒で防いでいる（いずれも同社提供）

法に活用。ゲリラ豪雨が頻発する近年、雨水を管などから地下に逃がし、河川や下水に一気に流入させない対策としても注目を集める。年商は約3億円。将来の国内市場の縮小を見越して、海外進出を模索している。

インドネシアでは、水を含むと体積が増える膨張性粘土と呼ばれる土質が多く、雨期には地盤が傾いたり、排水溝がゆがんだりする被害が多い。対策もコストが高い土壌の入れ替えなどに限られ、日本の商社や不動産業者が現地進出する

際の課題になっている。北海道ポラコンによると、同社の側溝や管を現地では、土の膨張圧とともに水分がコンクリートの隙間から中に吸収され、地盤の変形を防ぐ効果が期待できるという。5月に国際協力機構（JICA）の中小企業海外展開支援事業に応募し、来年1月からの基礎調査が認められ、850万円を上限に支援を受け

現地の行政当局に技術をアピールし、パートナー企業を探すと3年以内にプロジェクトに結び付け、5年後をめどに現地法人を設立したい考え。同社の中島康成副社長は「経済成長が進むインドネシアで継続的な事業に育て、雨水対策に悩む他の国への技術普及とともに、日本での知名度向上にもつなげたい」と話している。

道東サンマ手頃感 出だし好調

9月1日 防災の日

道東沖のサンマが手頃な価格で、全道チェーンのスーパーの店頭に並び始め、商戦が本格化している。主力となる棒受け網漁の出だしが好調。昨年は記録的な不漁だっただけに、小売業者も注目している。

札幌市中央区の「マックスバリュ マルヤマクラス」では31日、昨年の同時期のおよそ半値となる1匹98円（税抜き）で販売。同市中央区の主婦酒井茉莉さん（30）は「去年は高かったからこの価格はうれしい。やっぱり旬の物を味わいたいですね」と笑顔で話した。

道内求人倍率 7月1・16倍

北海道労働局は31日、7月の道内の有効求人倍率は（原数値）が前年同月比0・07増の1・16倍だったと発表した。前年同月を上回るのは102カ月連続で、過去最長を更新した。有効求人倍率は、求職者1人当たりの求人数を表す。7月の有効求人数は同

4・7%増の6人、有効求職者0%減の8万人が増加する一方は減少しており傾向が続いて職業別の有効は、型枠大工・01倍、建築・09倍、術者・09倍と特に高かった。有効求人倍率は、全国平均の1・

4匹購入した。ほかにも、1を切る価格で塩スパーが目玉（札幌）は「ムが大きく、脂は「今後、台崩れないことをが続いてほしい」。

ヤマハ発新装置を



手頃な価格で並ぶ道東沖のサンマ。マックスバリュ マルヤマクラス店

北大発の医療チャーター「イーベ」は31日、ヤ（静岡県警田田の出資を受けたと発表した）